いろは

18 2005年3月20日発行

住所：台北市慶城街28號 通泰商業大樓 TEL:02-2713-8000 FAX:02-2713-0705
HP:http://www.koryu.or.jp/nihongo/（日本語センター）
E-mail:nihongo@mail.japan-taipei.org.tw
発行：財団法人交流協会日本語センター
編集：中尾真樹・賴雅婷 編印：加斌印刷有限公司

「社会人のための日本語学習 ー大学レベルでの教育システムと学習動機ー」（2）

（財）交流協会日本語専門家 堀越和男／武下志保子

一般的に社会的要因や学習者を取り巻く環境は外国語学習の動機に大きく影響を与え、そしてその動機は目標とする言語の学習に対する努力の大きさを決め、結果的にその成果を大きく左右すると考えられている。前号では社会人が日本語を学習する際の大学レベルでの教育システムの概要を示したが、本号ではそれを踏まえ、主にそこに在学する「社会人」を中心に、なぜ彼らは働きながら日本語を学ぼうと思うのか、台湾という社会や彼らを取り巻く環境の何が彼らを日本語の学習へと導くのかその要因を探り、教室活動への応用について考察する。

1．調査の方法

2004 年 10 月、台湾の北部・中部の大学８校の夜間コース（いわゆる「進修部」「在職班」「推広部」）で主に日本語を専攻する学習者を対象に日本語学習の動機調査を行った。アンケート[1]は縫部ら（1995）、郭ら（2001）、磐村（2004）を参考に作成し、予備調査を行い一部修正した後 53 項目を設定した。また、本調査では 10 代から 60 代までの男女 471 人より 422 の有効回答（有効回答率 89.8%）を得た。なお、各動機は５段階（１＝非常不同意～５＝非常同意）で評価してもらった。

2．日本語の学習動機

アンケートの集計結果をデータ[2]に因子分析[3]を行ったところ、六つの日本語学習動機に関する因子[4]を抽出することができた。それぞれの因子は以下のように呼ぶ。

第１因子…「日本人及び日本文化理解志向」
日本、日本語のメディアを通し、日本人の価値観や生活習慣、行動様式、及び日本の伝統や文化についての理解を深めたいという気持ち、及び日本・日本語が好きであること。

日本語の雑誌が並ぶ台北の「永漢国際書局」

第２因子…「大衆文化接触志向」
日本のポップソングやテレビドラマ、漫画、ゲーム、ファッションなど日本のサブカルチャーに対する興味、及び日本の歌手や俳優・スポーツ選手が好きであること。

第３因子…「交流志向」
家族や職場、日本人の友人との日本語による交流の必要性。

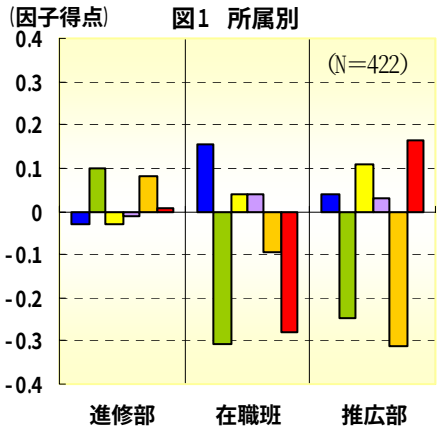
第４因子…「日本社会理解志向」
日本との過去の歴史、及び日本の社会、政治・経済、科学技術などへの関心。

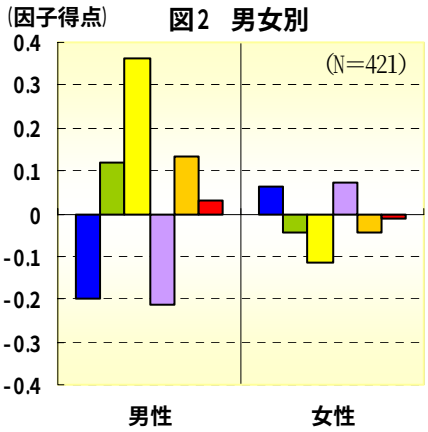
第５因子…「優越感享受志向」
日本語ができることにより評価されたい、カッコイイと思われたいなどの優越感を享受したいという願望。

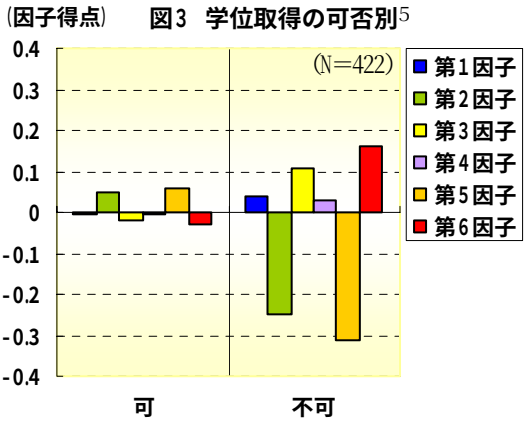
第６因子…「仕事役立て志向」
いわゆる道具的動機で、日系企業への就職・転職、昇進や資格取得、また仕事での必要性。

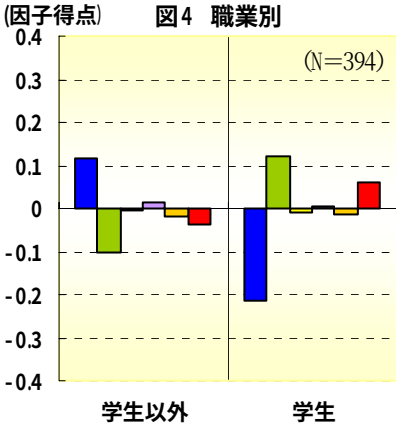
3．分類別動機の特徴

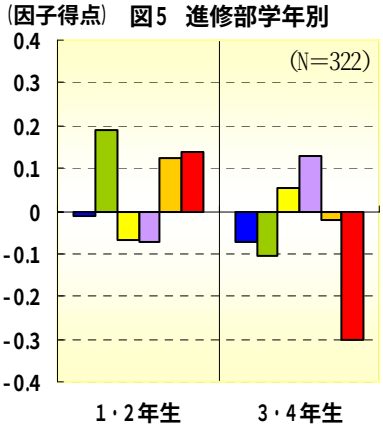
次に、図１～６の分類において日本語学習動機に違いが見られるのか、その特徴を因子得点を基に検証する。図では因子得点が高いほどその動機が相対的に強いことを表しているが、分類によって対立する項目の学習動機の強さが異なって

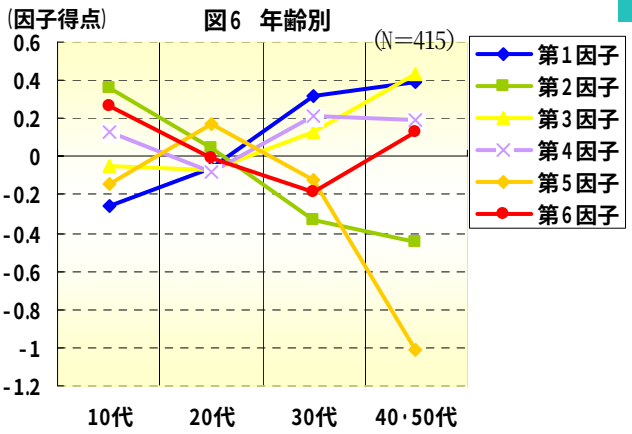












いることがわかる。例えば、図２男女別の第３因子「交流志向」を見ると、女性より男性のほうが突出して高い。これは男性の方が日本語による交流への関心が高いことを意味している。また、図５進修部学年別の第６因子「仕事役立て志向」では３・４年生の場合その動機が１・２年生に比べ大きく低下しているが、これは日本語を学んだとしても仕事に役立つのかといった不安を意味している、のであろうか。その中でも最も顕著な相違が見られるのが、図６の年齢別である。第１因子「日本人及び日本文化理解志向」は年齢が高くなるに従い高まり、一方第２因子「大衆文化接触志向」は若いほど高くなっている。台湾では街を歩けば日本のポップソングが流れ、本屋に入れば日本の漫画や雑誌、DVD などの商品が所狭しと陳列され、またテレビをつければ日本のドラマや料理や旅行などのバラエティー番組が字幕付きで放送されている。ここでの分析結果はこのようなサブカルチャーが若者たちの日本に対する興味の入り口になっており、日本語学習動機の大きな要因となっていることを裏付けている。

４．教室活動への応用

外国語学習においては学習者の動機に即した教育によってその効果が期待できると考えられるが、そうだとすれば、以上の結果から「社会人」の場合、男性の多いクラスではコミュニケーションを中心とした教室活動、10 代の学生が多ければドラマや歌を取り入れた授業、30 代以上が多い場合は日本人の生活や文化などをテーマとして考える場が得られることが望ましい。学習者の動機を考慮した上で、そのような機会を提供することも教師の重要な仕事の一つであろう。

〈参考文献〉

縫部慶憲・狩野不二夫・伊藤克浩（1995）「大学生の日本語学習動機に関する国際調査―ニュージーランドの場合―」『日本の教育』86 号，日本語教育学会，pp.162～171

郭俊海・大北葉子（2001）「シンガポール華人大学生の日本語学習の動機づけについて」110 号，日本語教育学会，pp.130～139

磐村文乃（2004）「韓国人女子大学生の日本語学習動機と対日観」『2004 年日本語教育国際研究大会　予稿集』発表１，日本語教育学会・国際交流基金・国立国語研究所，pp.179～184

1　アンケートの質問及び、因子分析の結果などについては、ここをクリック。

2　クロンバックのα係数による尺度の信頼性はα=.94。

3　主因子法、バリマックス回転による。

4　固有値が１以上のもののみを因子とする。

5　卒業時に学士号が取得できるか否か。

「社會人士的日語學習
―大學程度的教育系統與學習動機―」(2)

(財)交流協會日語專家　　堀越和男／武下志保子

一般而言，社會因素與學習者所處環境對於學習外語的動機具有很大的影響，而動機的強弱又決定了在學習語言這一目標上付出努力的多寡，連帶著也深刻地左右學習的成果。上期的特集介紹了社會人士在大學程度的教育系統中學習日語的概況，本期將依據上期的內容，主要針對在學中的社會人士探討他們為何於工作之外還想學習日語，以及在台灣社會與所處環境中是什麼因素引發他們學習日語的動機，並且思考如何把所分析的結果應用在教室活動裡。

1. 調查方法

於 2004 年 10 月，主要以在台灣北、中部的 8 所大學夜間課程(所謂「進修部」、「在職班」、「推廣部」)主修日語的學習者為對象，針對其學習日語的動機施行調查。問卷[1]的製作參考了逢部氏等人(1995)、郭氏等人(2001)、盤村氏(2004)的論文並進行預備試驗，經部份修正後設計完成了 53 個問項。本調查採樣的對象為 18 歲至 69 歲的男女共 471 人，有效問卷計 422 份(有效回答率 89.8%)。每個問項的選項分為五種等級(1＝非常不同意～5＝非常同意)請受訪者作答。

2. 學習日語的動機

運用因素分析[2]的方法統計問卷的數據[3]後，歸結出六項與日語學習動機有關的因素。各因素[4]的說明如下，

第 1 因素…「理解日本人與日本文化取向」

想要透過日本、日語的媒體，更加瞭解日本人的價值觀、生活習慣、行為模式、日本傳統文化，以及喜歡日本、日語。

第 2 因素…「接觸大眾文化取向」

對日本的流行歌曲、電視連續劇、漫畫、電玩、流行時尚等日本的次文化有興趣，以及喜歡日本的歌手、演員、運動選手。

第 3 因素…「交流取向」

在職場或是與家人、日本友人交談時需要使用日語。

第 4 因素…「理解日本社會取向」

想瞭解過去的台日關係以及日本的社會、政治、經濟、科學技術等。

第 5 因素…「享受優越感取向」

希望因為會日語而獲得高評價、享受被認為了不起的優越感。

第 6 因素…「就業取向」

要在日系公司上班、轉業、職位晉昇、資格取得以及工作上有需要，也就是所謂工具性動機。

3. 各分類動機的特徵

接著，由圖 1～6 各分類找出日語學習動機的差異，從而以因素分數為依據來驗證其特徵。在圖上，因數分數越高表示學習動機相對越強，由此可知，各分類中每個項目的學習動機的強度有所不同。例如從圖 2 男女別的第 3 因素「交流取向」可以看出男性較女性高得多，這表示男性對於使用日語交談的關心度較高。此外，圖 5 進修部年級別的第 6 因素「就業取向」，3、4 年級生的動機較 1、2 年級生大為下降，這應是意味著儘管學了日語但對將來就業是否有所幫助仍感不安。在圖 6 年齡別的地方看到最為顯著的差異，也就是在第 1 因素「理解日本人與日本文化取向」呈現年齡越高動機越強的現象，但另一方面，在第 2 因素「接觸大眾文化取向」則是越年輕動機越強。在台灣，大街小巷隨處可以聽到日本流行歌曲，書店裡滿滿陳列著日本的雜誌、漫畫、DVD 等商品，而且只要打開電視就可以收看附中文字幕的日劇及介紹料理、旅遊等日本綜藝節目。這次的分析結果證明了這些次文化使得年輕人開始對日語產生興趣，也成為學習日語動機的一大要因。

4. 教室活動的應用

外語的學習者若對其接受的教育有強烈的學習動機，則其成效是可以寄予期待的。由以上的結果來看，以「社會人」而言，在男性較多的班級宜進行以練習對話為主要內容的教室活動。若 18、19 歲的學生較多，則在課堂中宜多加入日劇、日文歌等課程。若 30 歲以上的學生較多，則以日本人的文化及生活方面的課題為理想。將學習者的動機列入考慮，做出相關內容的課程設計應該也是教師一項重要的工作。

---

1 關於問卷的問項以及因素分析的結果等，請按『ここ』進入。
2 使用主因素法並以最大變異數轉軸法(varimax rotation)加以分析。
3 內部一致性係數(Cronbach's α)值為.94，顯示這些問項具有相當的信度。
4 只有固有值在 1 以上的才視為因素。
5 畢業時能否取得學士學位(請參照第 2 頁圖 3)。

這次的問卷調查承蒙各教育機構及相關人士多方協助，在此致上最誠摯的謝意。

最終回「『哈日族』現象と日本語ブーム」

台湾大学日本語学科非常勤講師　藤井彰二

1996年8月、台湾ではケーブルテレビ局が正式に許可されたことを受けて、日本のテレビ番組が堂々と放送されるようになった。この頃を機に若者たちを中心に、テレビや雑誌、インターネットを通して入ってくる日本製の音楽・トレンディドラマ・アニメ・コミック・ファッション・ゲーム・グルメ等が大流行し始め、1999年頃には「哈日族（日本大好き族）」という社会現象が起こった。「哈日族」の「哈」は「大好き」「あこがれる」「かぶれる」「崇拝する」などの意味があるが、日本の若者の流行をまねて「厚底」「茶髪」「援助交際」が出現、「ハローキティ」「ピカチュウ」「ドラえもん」等のキャラクター商品は、年齢を問わず飛ぶように売れた。

若者達は日常生活の中で「ありがとう」「かわいい」「おいしい」「さようなら」といった日本語の言葉をおしゃれ感覚でさりげなく使用、コンビニの「日式御弁当」「緑茶」は「超人気」、街角の「日式」ラーメン、しゃぶしゃぶ、回転寿司の店に人が集まった。テレビの旅行番組の影響もあって、北海道や温泉が「一級棒（いちばん）」と日本への観光客も激増した。

日本語学習環境も1990年代になって大きく変化した。教育部（日本の文部科学省に相当）は、1999年9月から普通高校での第二外国語教育推進計画を実施。高校の日本語履修者数は、フランス語、ドイツ語、スペイン語を後目に7割以上を占めている。また前号（第12回）で述べたように、高等教育機関の日本語学科やコース設置校数は1970年代までの私立4校から、現在の43校にまで増加している。これらの背景を反映してか、台湾で1991年に始まった「日本語能力試験」（交流協会主催）の受験者数は当初の922名から37,733名(2004)と、この13年間で40倍増の勢いである。

交流協会は、こうした台湾の日本語教育を支援するために、2000年7月、台北事務所に「日本語センター」を開設し、日本語教師のための各種研修会・特別講演会の開催、日本語関連の専門書籍・雑誌の閲覧・貸し出しができる図書室の運営、当ニューズレター『いろは』による台湾の日本語教育情報の提供、日本語教育事情調査等業務を行っている。

最末章「『哈日族』現象與日語熱潮」

一般のＣＤショップに日本の作品が並ぶ（台北市内）

1996年8月，台灣的有線電視正式取得營運許可，日本的電視節目得以光明正大地播放。於是，日本的音樂、日劇、動畫、漫畫、時尚、電玩、美食等開始透過電視、雜誌、網路傳入，在年輕族群間引起極大的流行，因而在1999年產生所謂「哈日族」的社會現象。「哈日族」的「哈」有「喜愛」、「嚮往」、「上癮」、「崇拜」諸多含意，這時模仿日本年輕人流行的「厚底鞋」、「染髮」、「援助交際」的行為都出現了，此外「凱蒂貓」、「皮卡丘」、「哆啦A夢」等人物商品也吸引了各個年齡層，非常暢銷。

年輕人在日常生活中隨口說出「阿里阿多」、「卡哇伊」、「喔伊係」、「莎喲哪啦」等具時髦感的日語詞彙，便利商店的「日式御便當」、「綠茶」都是「超人氣」，街頭上「日式」拉麵、涮涮鍋、迴轉壽司的店裡擠滿人潮。也許是受到電視旅遊節目的影響，認為北海道、温泉是「一級棒」，因而赴日的觀光客也急速增加。

學習日語的環境也於1990年代起出現了很大的變化。教育部自1999年9月開始在普通高中推動第二外語教育計劃。高中選修日語的人數佔了7成以上，遠遠超過法、德、西班牙語的學習人數。此外，如同前一章(第十二章)所述，高等教育機構設置日語科系、課程的學校在1970年代之前只有私立的4所，現在已經增加到43所。或許是反映了這樣的背景，台灣於1991年起舉辦「日本語能力測驗」(交流協會主辦)，第一年參加考試的人數只有922人，去年(2004)則有37,733人，13年間成長了40倍。

交流協會為了協助台灣日語教育的發展，於2000年7月在台北事務所成立日本語中心，為日語教師舉辦各種研習會、特別演講會，另設圖書室提供日語相關專業書籍、雜誌借閱的服務，並且發行季刊『いろは』提供台灣日語教育資訊，也進行日語教育現況調查等業務。

教育部･台湾日本研究学会･交流協会主催

第１回全国大学生日本語ディベート大会

３月26日（土）１時半から国立台湾師範大学にて、教育部・台湾日本研究学会及び交流協会主催で、大学生による日本語ディベート大会を開催する（本号 p.8 参照）。今年度は「台湾は公営ギャンブルを合法化すべきである」という論題をめぐって、トーナメント形式で優勝を争う。

外国人による日本語ディベートは、日本語教育の授業の一環として、あるいは学校内での大会として行われている例はあるが、学校代表による全国規模の大会は、日本及び海外を含めても、あまり例がない。台湾においても全土の大学を対象としたものとしては初の試みである。

本選では、昨年12月10日に行われた南部地区予選（出場校４校）で勝ち残った文藻外語学院・南台科技大学と、12月25日に行われた北部地区予選（出場校10校）で勝ち残った東呉大学・東海大学が議論を戦わせることとなった。予選を通過した４校により、更に綿密な調査と論理的な組み立てに基づいたハイレベルな論戦が期待される。

なお、試合の進行手順や時間配分、詳しいルールなどについては日本語版・中国語版の実施要領が用意してあり、日本語センターホームページからダウンロードできる。

第５回日本語教育実践講座/第28回中等教育機関日本語教師研修会

講　師：長坂水晶
（国際交流基金日本語国際センター専任講師）
テーマ：インターネットを活用した日本語教育（予定）

日本語教育実践講座（高雄）

日時：2005年４月16日（土）13:00 ～ 16:00
会場：文藻外語学院

中等教育機関日本語教師研修会（台北）

日時：2005年４月17日（日）14:00 ～ 17:00
会場：交流協会日本語センター

第３回ディベート特別研修会

３月26日（土）に開催される日本語ディベート大会を受けて、第３回ディベート特別研修会を行う。日本語センターで通常行われている研修会方式とは違い、座談会形式で進める。ディベートを取り入れた授業の実践報告や全国大学生日本語ディベート大会の指導の報告などを中心に日本語教育とディベートについて考え、意見交換を行う。参加申し込み及び研修会の詳細については、当協会ホームページを参照のこと。

日時：2005年３月27日（日）11:00～14:00
会場：交流協会日本語センター

台湾人日本語教師本邦研修

当協会では、毎年夏期に約３週間、台湾の日本語教師10名を本邦へ招聘し、杏林大学において日本語教育に関する短期集中研修を行っている。今年度も高等教育機関で日本語教育に携わっている教師10名を招聘する予定である。募集の詳細については当協会ホームページを参照のこと。

交流協会からのおしらせ

閲覧室について

当協会（台北及び高雄事務所）の閲覧室は、日本語・日本語教育関係の最新の書籍のほか、ビデオ・CD・DVDなどの視聴覚教材を収蔵しております。日本語教育に携わる方、また日本や日本語に興味をお持ちの方に図書の貸し出しなどのサービスを行っており、視聴覚資料も閲覧室内でご覧いただけるよう、AV 機器を用意しております。なお、所蔵資料の目録を台北・高雄の各事務所ホームページ上で公開しておりますので、上記関係書籍などをお探しの方はご利用ください。

2006年度（財）交流協会奨学金留学生試験について

当協会では、毎年奨学金留学生試験を実施しております。今年度は選考方法などに一部変更がありますので、ご注意ください。本奨学金に関しては、当協会ホームページ（中文）に「応募要項」と「Q＆A」を掲載しております。また、受験申請書もダウンロードできます。

第26回中等教育機関日本語教師研修会

小川京子氏

第26回中等教育機関日本語教師研修会が1月8日（土）に日本語センターで行われた。講師には小川京子氏（對外貿易發展協會國際企業人材培訓中心）を迎え、「オーストラリアの日本語教育－ビクトリア州の中等教育を中心に」というテーマで、オーストラリアの中等教育事情に関する講義、及び教材作成のワークショップが行われた。世界第3位の日本語学習者数を誇るオーストラリアの日本語教育の現状は、たとえ他国の事情であっても、台湾の中等教育機関の日本語教師にとっては有益な情報が多かった。特にオーストラリアの中等教育機関（小・中・高）における日本語教育のカリキュラム及び、評価方法、教授法などは、世界でもモデル的存在として扱われているだけあり、実際に使われている教材や試験、教師間ネットワークに関する情報は、研修者が個々の学校ですぐに役立てられるものが多く、言語の違いはあるにせよ、情報収集の面からは多くの収穫がある研修会であった。また、ワークショップでは、中等教育機関で実際に使われている教室活動を体験し、どのようなレベルや場面、言語活動に役立つかなど、受講生同士でのディスカッションは尽きることがなかった。

2004年度日本語教育冬期研修会

松崎寛氏

1月22日（土）から27日（木）にかけて、2004年度日本語教育冬期研修会を、台北・台中・高雄において各2日間の日程で開催した。今年度は松崎寛氏（広島大学教育学部日本語教育学講座講師）と河野俊之氏（横浜国立大学教育人間科学部助教授）を講師に迎え、「通常授業と連動させた音声教育」というテーマで講義とワークショップを行った。

初日午前中の講義では、一般に行われている「発音矯正」の問題点を取り上げて実践的体系的な音声教育の必要性を指摘し、学習者自身が自覚的に音声を学ぶための視覚的補助として、プロソディーグラフが紹介された。プロソディーグラフとは、音の高さと長さを記号で表して日本語文に添え、文の韻律をわかりやすく示したものである。この講義を踏まえて午後に行われたグループ活動では、参加者が通常の授業で使用している教材とプロソディーグラフを組み合わせて実際の教案を作成し、二日目にはワークショップを行った。

参加者からは、この研修を通じて音声教育の重要性をあらためて認識し、教育方法についても具体的な方向性が見えたという声などが寄せられ、各会場で好評を得た。

河野俊之氏

なお、本研修会で配布された資料およびポスターセッションの掲示物などを、当協会のホームページ上で公開している。

第4回　日本語教育実践講座

2月19日（土）、文藻外語学院（高雄市）を会場に3名の講師を招き「第4回日本語教育実践講座／日系企業が期待する日本語教育」が行われた。

一人目の講師、北村重喜氏（台湾双葉電子董事長、高雄日本人会会長）からは、「日系企業の立場が求める人材」と題し、台湾における日系企業についての解説、企業が求める人材、新卒者採用の現状と問題点等について、現状に即した見解が述べられた。呉玉眞氏（保聖那管理顧問）からは、「一流の日本語人材を目指して」というテーマで、面接の秘訣や、日系企業の採用時における優先選考基準の分析、就職後の失敗要素など、具体例を交えた話がなされた。工藤節子氏（東海大学専任講師）は、「日系企業におけるコミュニケーションの問題」と題し、日系企業の雇用者、被雇用者双方に対するアンケート結果をもとに、日本人と台湾人の「社会文化能力、社会言語能力の不足に起因する誤解や問題」「社会文化行動のための日本語教育」について言及された。

座談会には、3名の講師に葉秀治氏（文藻外語学院日語文系主任）が加わり、会場から募ったテーマを中心に、企業及び教育機関の双方から意見が述べられ、大学生の企業見学やインターンシップ・プログラム実施の可能性についても言及された。

会場からは「社会のニーズを直接聞くことができる貴重な機会であった」「学生にも直接聞かせたい内容であった」などの感想が聞かれた。

第1回・第2回ディベート特別研修会

関口要氏

第1回全国大学生日本語ディベート大会に先駆け、昨年の12月12日（日）（第1回）と3月5日（土）（第2回）にディベートの指導者を対象とした特別研修会を日本語センターで開催した。「ディベートを正しく評価するには」というテーマのもと、橋本行平氏（大博士短期語文補習班塾長）と関口要氏（樹人医護管理専科学校講師）による講義及びワークショップが行われた。ディベートの適切な審判方法を学び、効果的なディベートについて考えることで、実際に指導する際の注意点が浮かび上がり、日本語教育のあり方を多角的にとらえる研修会となった。

第1回の研修会では、北部予選の事前審判研修を兼ね、初めに理論編として「議論のロジック」と判定基準について講義が行われ、後半では南部予選の1試合の審判を実際に体験しながら具体的な方法論を学んだ。そして、第2回の研修会では、北部予選の試合を振り返り、実際のディベートのスクリプトを見ながら、グループで詳細な試合分析を行い、判定の際の注意点などについて議論した。

橋本行平氏

本研修会は、日本語教育の幅広い分野において、ディベート教育という特化されたテーマに焦点をあてた研修会としては初の試みであり、参加者の高い関心の中、実践的で充実した研修となった。

日本語センターホームページ

昨年10月のリニューアルに伴い、研修会の予定や報告などを随時更新しております。今年から当センターで行われた研修会の配布資料などをホームページ上で公開するようにしていますので、研修会に参加できない方もホームページよりダウンロードできます。また、3月より「閲覧室」のページを全面リニューアルし、所蔵雑誌リストも掲載しておりますので、ご活用ください。

2004年度日本語文学会年度大会

12月18日（土）、台北市YMCA城中会議所で台湾日本語文学会2004年度日本語文学術検討会が開催された。午前の部では、日本から迎えた赤羽学氏（岡山大学名誉教授）と、吉岡英綱氏（早稲田大学大学院日本語教育研究科教授）の講演、午後には台湾在住の研究者9名による研究発表が行われた。

なお、第11回理事会役員が2004年12月にその任期を終えるにあたり、本大会中に選挙が行われ、曽秋桂新理事長（淡江大学副教授）をはじめとする新役員が選出された。2005年1月からは、新理事会によって学会が運営されている。

全国大学・専門科学校 日本語スピーチコンテスト

12月19日（日）台湾大学応用力学館にて、「全国大学・専科学校日本語スピーチコンテスト」が開催された。一昨年に引き続き休日の開催とあって、当日の悪天候にも関わらず多くの聴衆が集まり、力のこもったスピーチに耳を傾けた。

午前は非専攻組31名のスピーチと質疑応答が行われた。1位に李天允さん（成功大学）の「歌の魅力」、2位に譚君怡さん（政治大学）の「日本が好きになったおかげで」、3位に呉宗育さん（実践大学）の「日本人特有の集団心理」が入賞した。午後は専攻組39名による即興スピーチが行われた。1位に謝宛蓉さん（台湾大学）の「結婚するなら」、2位に賴逸安さん（育達商業技術学院）の「整形美人」、3位に周緯俊さん（中国文化大学）の「日本料理」が輝いた。

台北日本語補習授業校 2004年度学習成果発表会

12月25日（土）、「台北日本語補習授業校 2004年度学習成果発表会」が行われた。この補習授業校で日本語を学ぶ子供達約50人は主に台湾人と日本人の間に生まれた子供達で、現地台湾の幼稚園や小学校に通っている。日本語の授業は毎週土曜日の午前中2時間、学年別に六つのクラスで行われており、教師はお母さん達が担当。日本の「国語」教科書や手作りの教材を使い、様々な工夫を凝らした授業を行っている。発表会当日は、子供達が書いた絵や作文などの展示の他、歌と器楽演奏、日本語劇、リトミックダンス、暗唱人形劇など盛りだくさんのプログラムであった。1年間の努力の成果を一生懸命発表する子供達のかわいい姿に、カメラを構えるお父さんお母さん達も力が入っていたようだった。

東吳大学外国語文学院
2005 年校際学術検討会議

日時：2005 年 3 月 26 日（土）9:30～
会場：東吳大学外双溪キャンパス国際会議庁(B013)
テーマ：「文化衝突」
問合わせ：東吳大学日本語文学系
(02-2881-9471 分機 6525　林淑恵助教)
(http://www.scu.edu.tw/japanese/chinese/news/japanesenews/inform/940104.htm 参照)

台湾日本研究学会主催
2005 年全国大専校院日本語スピーチコンテスト

日時：3 月 26 日（土）8:30～11:30
会場：国立台湾師範大学教育大楼 2F
問合わせ：台湾日本研究学会連絡処
(02-2704-2962 劉修慈小姐)

東吳大学日本語文学系
日本語教育国際シンポジウム

日時：4 月 30 日（土）9:00～18:00
会場：東吳大学外双溪キャンパス国際会議庁（B015）
問合わせ：東吳大学日本語文学系
日本語教育シンポジウム準備委員会
(02-2881-9471　内線 6532)
(http://www.scu.edu.tw/japanese/chinese/news/japanesenews/inform/940307.htm 参照)

2005 年中国文化大学日本文学国際学術検討会

日時：2005 年 5 月 14 日（土）8:30～16:45
会場：中国文化大学暁峯記念館国際会議庁
基調講演：吉田とよ子（上智大学比較文化学部教授）
「日本文学の特質（仮題）」
問合わせ：中国文化大学日本語文學系　陳俊安助理
(crrmjl@staff.pccu.edu.tw)

静宜大学日本語文学系
2005 年中部地域日本研究学術討論会

日時：5 月 21 日（土）8:30～17:30
会場: 静宜大学会議ホール（任垣楼 T120）
問合わせ: 静宜大学日本語文学系
(04-2632-8001　内線 12012)

大葉大学応用日本語学科
2005 年度台日日本語学国際シンポジウム大会

日時：2005 年 6 月 4 日（土）9:40～
会場：大葉大学
問合わせ：大葉大学応用日本語学科
(04-851-1888　内線 6075･6080)

日本語関連行事予定

3月の予定
26日(土) 2005年校際学術検討会議
会場：東吳大学外双溪キャンパス国際会議庁
2005年校全国大専校院日本語スピーチコンテスト
会場：国立台湾師範大学教育大楼 2F
第１回全国大学生日本語ディベート大会本選
会場：国立台湾師範大学教育大楼 2F
27日(日) 第３回ディベート特別研修会
会場：交流協会日本語センター

4月の予定
16日(土) 日本語文学会例会
会場：台湾YMCA城中会所 2F
第５回日本語教育実践講座
会場：文藻外語学院
17日(日) 第28回中等教育機関日本語教師研修会
会場：交流協会日本語センター
30日(土) 日本語教育国際シンポジウム
会場：東吳大学外双溪キャンパス国際会議庁

5月の予定
14日(土) 2005年中国文化大学日本文学国際学術検討会
会場：中国文化大学暁峯記念館国際会議庁
20日(金)・21日(土)
第８回比較語彙学術シンポジウム
会場：台湾大学応用力学館会議室
21日(土) 日本語文学会例会
会場：台湾YMCA城中会所 2F
2005 年中部地域日本研究学術討論会
会場: 静宜大学会議ホール（任垣楼T120）

6月の予定
4日(土) 2005年度台日日本語学国際シンポジウム大会
会場：大葉大学
18日(土) 日本語文学会例会
会場：台湾 YMCA 城中会所 2F

『いろは』3 月 20 日号　目次

1～3 台湾日本語教育情報源
4 日本語と台湾
5 日本語センターからのお知らせ
6～7 日本語センターの活動報告
7 日本語教育ニュース
8 台湾日本語教育関連情報